

令和6年度 重点取組項目 職員評価（令和7年2月実施）

	1	2	3	4	5	6	重点事項	具体的な取組	評価割合					点数	部科長・主任コメント
									達成している 4	概ね達成している 3	あまり達成していない 2	達成していない 1			
総務部			○				オープンハイスクールの充実	オープンハイスクールの内容をより充実し、中学生や保護者にアピールする。	38.2%	61.8%	0.0%	0.0%	3.38	各科の特色や、授業での具体的な実施内容を中学生の皆さんに提示している。	
					○		広報活動	HPやPTA広報誌『聲』、学校案内を充実する。また、生徒連絡を十分に	64.7%	35.3%	0.0%	0.0%	3.65	PTAでは広報誌を年2回発行している。また、HPでは行事や各科の取り組みで新しいものをタイムリーにUPしている。	
			○			○	危機管理の徹底	防災マニュアルや消防計画書の作成と周知、避難訓練の実施。	47.1%	47.1%	5.9%	0.0%	3.41	危機管理マニュアルを毎年見直ししている。	
			○			○	図書室の利用推奨・生徒の居場所づくり	蔵書・施設環境の充実を図り、図書委員とともに読書啓発活動を企画運営する。図書室の開放日を増やし、生徒が落ち着いて過ごせる場所づくりに取り組む。	38.2%	52.9%	8.8%	0.0%	3.29	図書の廃棄や新書を充実できるように取り組んでいる。	
			○	○			図書室の授業利用の促進	課題研究や、問題解決のための情報収集ができるように、情報機器の管理や工業や商業に関する蔵書の充実に取り組む。	20.6%	47.1%	29.4%	2.9%	2.85	授業利用の具体的な内容を見直すとしている。	
			○				人権H R・行事の実施	各学期ごとに人権H Rや人権行事（映画鑑賞・講話）などを実施する。	50.0%	44.1%	5.9%	0.0%	3.44	学期ごとには出来ないが、生徒に考えてもらう内容の取り組みを行なっている。	
			○				人権教育推進のための教員研修会の実施	新たな課題に対応するための教員向け研修会の実施。	26.5%	35.3%	38.2%	0.0%	2.88	人権H Rや行事に多くの教職員に参加してもらうことで、研修を兼ねている。	
教務部	○						I C T を活用した授業	情報機器を活用した授業の研究や操作・活用方法などについての研修を実施し、多くの授業で情報端末を有効活用する。また、自動採点の導入も積極的に推進していく。	50.0%	41.2%	8.8%	0.0%	3.41	多くの先生がICTを使用して事業展開していただいている。今後は先生方の事例を共有していきたい。	
	○		○				観点別評価の実施	昨年度の振り返りを通じて、各教科において完全実施となる3つの観点に対応した評価方法を検討し、実践する。これにより、主体的で対話的な授業展開を促し、深い学びを提供する。	38.2%	55.9%	5.9%	0.0%	3.32	観点別評価については、各教科ごとに基準を決めていただくなどして、問題なく運用できているように感じる。一方、主体的な学びにつなげる方法については今後研究していきたい。	
						○	出欠・成績管理の徹底	日々、生徒の出欠を校務支援システムに入力し、その状況を活用して、教科担当・担任との連携を密にする。	67.6%	26.5%	5.9%	0.0%	3.62	疎かになった部分が多いので、教科担当から学年への声かけを増やすよう促していきたい。	
生徒指導部		○	○			○	学年・保健部・教育サポート委員会・SCとの協力	生徒の心身の健康・安全にかかわる部署と情報や対応を共有し、生徒と向き合う。	55.9%	44.1%	0.0%	0.0%	3.56	担当教員と連携を図り、情報共有をしている。	
		○	○	○	○	○	対話的生徒指導	問題行動に対する事実確認や聞き取りだけでなく、普段の学校生活のあらゆる場面で生徒と対話し、生徒に寄り添い、開かれた生徒指導部を目指す。	44.1%	52.9%	2.9%	0.0%	3.41	学校生活アンケートなどを定期的に実施して、いじめ等の早期発見に努めている。	
		○	○	○	○	○	具体的行動力	挨拶運動や運動着検定身体測定や交通指導、街頭指導など、現場の活動を重視し、生徒とのかかわる場面を増やし、多角的に生徒と向き合える生徒指導を行う。	44.1%	52.9%	2.9%	0.0%	3.41	学校内には留まらず、近隣商業施設からの情報提供を頂き、生徒の見守りをしている。	
			○	○	○	○	一致団結生徒会	生徒会を有機的に組織し、行事やボランティア活動によって、全校生徒が生徒会会員である自覚を醸成し、学校内外で実業ブランドを確立する。	55.9%	38.2%	5.9%	0.0%	3.50	生徒会が主体となり、公式インスタの更新など行事の情報を積極的に発信している。	
		○	○		○	○	生徒による生活づくり	校則やマナー、情報機器の使用ルールを生徒自ら見直す機会をつくり、皆が過ごしやすい学校生活を主体的に考え実現する場面を設定する。	41.2%	47.1%	11.8%	0.0%	3.29	定期的な全校集会の場で、マナーなどの注意喚起を積極的に行なっている。	
			○		○		進路説明会の実施	進路の手引を作成し、保護者や生徒に対して説明会を実施し、情報連携を深める。	61.8%	38.2%	0.0%	0.0%	3.62	進路説明会の実施	
	○			○			進路セミナーの実施	卒業生や企業の方を派遣講師を招いてセミナーを実施する。	52.9%	41.2%	5.9%	0.0%	3.47	毎年実施している。	
進路指導部	○						進路講話の実施	進路指導部から学年に応じた進路に関する講話を実施し、進路意識の定着を図る。	44.1%	50.0%	2.9%	2.9%	3.35	今年度も実施している	
					○		進路資料室の整備	進路資料室を設置し、就職・進学・情報機器などの整備し、進路活動の充実を図る。	32.4%	55.9%	11.8%	0.0%	3.21	整理整頓に心がけている。	
		○	○				進路委員の活用	各学年クラスに進路委員を設置し、個別の資料配布や情報提供の活動を活性化させる。	26.5%	50.0%	23.5%	0.0%	3.03	出来ることはお願いしています。	
			○	○		○	勤労観の育成	就労体験（インターンシップ）を実施し、職業意識を高める。	61.8%	35.3%	2.9%	0.0%	3.59	インターンシップでの体験	
							進路面談	個別面談を行い、進路意識の確認、希望の明確化と同時に、自己啓発を促す。	44.1%	52.9%	2.9%	0.0%	3.41	3年で実施している。	
	保健部	○	○				○	健康管理の徹底	定期健診の受診率を上げ、事後処置の促進に努める。健康に関する情報を提供し、健康管理についての関心を高める。保健教育充実のための、外部講師を招き講演会を実施する。	61.8%	35.3%	2.9%	0.0%	3.59	保健だよりの定期発行、定期健診受診の個人への連絡を行なった。外部講師を招き、「性についての講話」、「食育の講話」、「口腔内の健康についての講話」を実施し、啓発した。
				○			○	危機管理・組織的な連携	校内救急体制の周知徹底や救急処置法の習得などの研修会を実施する。	55.9%	35.3%	8.8%	0.0%	3.47	年度はじめに学校保健のしおりで校内救急体制の周知を行なっている。救急処置法については、計画をしていたが派遣講師の都合で実施できなかった。
○		○					基本的な生活習慣	睡眠や食事など基本的な生活習慣を確立させるため、健康相談・教育相談機能を充実させる。	41.2%	55.9%	2.9%	0.0%	3.38	食育について、朝食をとることの動機づけを行い、各教科での取り組みと絡めた。健康相談、教育相談を受けやすい保健室は生徒に開放的であった。	
1年		○					基本的な生活習慣の確立	無断欠勤の解消・体調管理・服装指導・マナー指導を徹底する。	20.6%	50.0%	29.4%	0.0%	2.91	試行錯誤をしつつも、担任が生徒の観察や積極的な声掛けを行っている。	
	○						基礎学力を基盤とする指導	タブレット学習の定着、学習サポートを利用し、授業担当者との連携を図り、学習意欲と学習を充実させる。	20.6%	64.7%	11.8%	2.9%	3.03	Classiを活用した基礎力向上プロジェクト（KKK）を推奨し始めた。各教科との連携はかっている。	
			○				生徒の自主・自律・共生	学校行事・HR活動・学年集会の充実。	23.5%	73.5%	2.9%	0.0%	3.21	生徒どうしでの共同作業、大学生との交流の機会をもち、コミュニケーション能力の育成に取り組んでいる。	
					○		自己実現に向けての情報収集・提供	進路指導部と連携し、キャリアパスポートを活用する。	23.5%	50.0%	20.6%	5.9%	2.91	進路ガイダンスを通して、さまざまな進路や資格について学ぶ機会をもった。	
2年		○					基本的な生活習慣の確立	無断欠勤の解消・体調管理・服装指導・マナー指導を徹底する。	11.8%	67.6%	20.6%	0.0%	2.91	マナー、服装指導などで不十分ところがある。	
	○						基礎学力を基盤とする指導	タブレット学習、学習教育ツールの活用を定着。学習サポートを利用し、授業担当者との連携を図り、学習意欲と学習を充実させる。	11.8%	70.6%	17.6%	0.0%	2.94	学習意欲は充実しているが、タブレット教育ツール使用に関しては、少しかけるところがある。	
			○				生徒の自主・自律・共生	学校行事・HR活動・学年集会の充実。	20.6%	70.6%	5.9%	2.9%	3.09	校外学習やHR活動などに関しては、充実しているが、共生となると疑問点が残る	
					○		自己実現に向けての情報収集・提供	進路指導部と連携し、進路講話・進路ガイダンスの実施。キャリアパスポートを活用する	11.8%	79.4%	0.0%	0.0%	3.03	進路との取り組みは充実しているが、キャリアパスに関しては、不十分である。	
3年		○					基礎学力の定着	無断欠勤の解消・体調管理・服装指導・マナー指導を徹底する。	17.6%	73.5%	8.8%	0.0%	3.09	その場に応じて担任を含め、学年で指導している。	
	○						基礎学力を基盤とする指導	タブレット学習、学習教育ツールの活用を定着。学習サポートを利用し、授業担当者との連携を図り、学習意欲と学習を充実させる。	41.2%	55.9%	2.9%	0.0%	3.38	タブレット活用を優先的に考えて行動している。	
			○				生徒の自主・自律・共生	学校行事・HR活動・学年集会の充実。	41.2%	55.9%	2.9%	0.0%	3.38	最上級学年として率先して取り組んでいる。	
					○		自己実現に向けての情報収集・提供	進路指導部と連携し、進路講話・進路ガイダンスの実施。キャリアパスポートを活用する	41.2%	55.9%	2.9%	0.0%	3.38	ある程度希望にそった進路実現を達成できた。	
機械科	○						ICT環境の充実	タブレット、パソコン、プロジェクターなどのICT機器を活用し、視覚的に工夫した授業を行う。	23.5%	67.6%	8.8%	0.0%	3.15	座学では、I C T を活用した授業ができている。実習など実技を伴う授業で試験的に試すことができたが、平常時も活用したい。	
		○					基本的な生活習慣の確立	実習等の集合・点呼・講話を通して、挨拶・実習安全等の意識を高める。	58.8%	41.2%	0.0%	0.0%	3.59	実習が始まる前に誰よりも早く登校し、実習機の掃除をしてくれる生徒もいて、基本的な生活習慣、事前準備の大切さを伝えることができた。	
			○				積極的な資格取得	技能検定などの資格取得を通して、学ぶという姿勢を大切にし、自ら考え行動できるようにする。	44.1%	55.9%	0.0%	0.0%	3.44	技能検定以外にJ I S 溶接技能者評価試験の取得者も増え、技能検定取得者がその技術を使ったものづくりにチャレンジすることができた。	
				○			キャリア教育の推進	工場見学・高大・産学連携事業を通じて、仕事に対する意識や職業観の育成を図る。	44.1%	52.9%	2.9%	0.0%	3.41	工場見学や出前授業、民間企業の講師による高い技術指導を生徒たちは目にし、今実習でやっている基礎・基本の大切さを実感させられた。	
					○		課題研究による地域貢献	地域の要請に応じて、作品・製品を製作したり、小中学生に対する出前工作を行う。	52.9%	41.2%	5.9%	0.0%	3.47	指導陣出し機やロケットの発射台、出前授業で身に付けた技術・技能を活用し、地域貢献することができた。	

					○	オープンハイスクールの充実	数多くの講座を開講し、少人数できめ細やかな指導を行うことで、内容を充実し、中学生や保護者にアピールする。	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	3.50	班を細分化したことで、生徒一人ひとりに声掛けを大切にすることができ、ものづくりに興味を持ってもらうことができた。
					○	危機管理の徹底	実習安全標語やポスター制作に取り組み、危機管理能力の育成を図る。	38.2%	55.9%	5.9%	0.0%	3.32	普段の生活から実体験が少ない生徒に対して、こうすれば次につながるか予測をさせる危機管理の大切さを実感させられた。
電気科	○	○			○	専門教育の充実	産学官との連携を踏まえ、専門的職業人の育成に向けた教育の充実を図る。	41.2%	58.8%	0.0%	0.0%	3.41	マイスターハイスクールの指定を受け、バッテリー教育に取り組んでおり、電池製作、工場見学や電池に関する出前授業を実施できた。課題研究では、企業の方に助言をもらいながら災害時に役立つものづくりが行えた。技能検定の電子機器組立での課題製作については、ものづくりマイスターの指導を受け、高い技術力を身につけた。
			○	○		キャリア教育の充実	資格取得や工場見学、出前授業等を通して、キャリア教育の充実を図る	52.9%	44.1%	2.9%	0.0%	3.50	電気科2年生は、電池の製造工場の見学、電池についての出前授業を受け、自分の課題について考える機会になった。3年生は、e-くわっく自動車についての出前授業と電子情報センターの施設見学を実施し、将来の進路選択の参考になった。また、電気工士の資格取得については、実技試験の学習を通して、仲間と協力して学習したり、実技練習では安全対策、材料準備、作業手順など特異に必要となるスキルを身につけた。
	○		○			ICT機器を用いた授業展開	タブレットやPCを活用し、デジタル社会に対応できる授業を展開する	52.9%	47.1%	0.0%	0.0%	3.53	授業の時にタブレットを使用し、授業の資料を配布、課題提出、アンケート実施などにICT機器を使用した。また、パソコンを使い実習レポートの作成や実験結果よりグラフを作成し、PCを活用できた。課題研究の授業では、発表資料をPCを使って、班ごとに協力して作成し、発表することになった。
					○	オープンハイスクールの充実	オープンハイスクールを通して、中学生や保護者に電気科の魅力伝える	52.9%	44.1%	2.9%	0.0%	3.50	電池製作やロボット実習体験など、中学生に電気科に興味を持ってもらえるような新しいテーマを増やして実施できた。説明資料では、最近の電気科での授業の取り組みや進路先など、資料を改良し魅力を伝えられるように工夫した。
地域商業科	○					専門的な基礎知識の定着	実践的な活動や検定試験の取得等を通して、商業の専門的な基礎値序・技術を定着させる。	32.4%	64.7%	2.9%	0.0%	3.29	販売実習やチャリティ活動などの体験的な活動を取り入れ、机上の学びだけでは身につけることができない資質・能力を育成することができた。
			○			自主性の育成	地域や企業と連携した体験的な学習活動を通して、自主的に学びに向かう力の育成を図る。	44.1%	55.9%	0.0%	0.0%	3.44	課題研究の講座ごとに地域や企業と連携した体験活動を行なった。学習意欲が低いと感じられる生徒も意欲的に取り組んでおり、学びに向かう力を育成することができた。
					○	オープンハイスクールの充実	オープンハイスクールの内容をより充実し、中学生や保護者に地域商業科の特色についてアピールをする。	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	3.50	これまでのスケジュールを変更し、授業体験後に科の説明を行なった。また、授業の様子を動画で紹介するなど、内容を充実させることができた。